

令和6年度 江東中学校 学校評価

評価基準 A 十分達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 全く達成できなかった

中期目標	短期目標	評価の観点	目標達成のための具体的方策		担当 分担	評価方法（評価アンケート）			その他の 評価方法	自己評価		改善の方向性	学校関係者評価委員評価		備考			
			だれがいつ	どのように		生徒	保護者	教職員		評価	達成状況		評価	所見				
（１）学力の育成	授業改善と教科指導の充実	校内研究テーマに基づき、授業改善および指導の工夫がなされている。	全教職員	年間	・江東中授業３ステップ（めあて・協働的な学習・振り返り）を意識した授業を構成し、ICTを活用しながら協働的に学ぶ学習活動を設定する。 ・授業の振り返りやタブレット学習等により、学習内容の定着を図る。	1				・国・県の学力調査	B	・めあてを掲げる授業者は昨年度に比べて増えた。授業でのICT活用も増えている。 ・江東中授業３ステップを意識した授業構成により、学習内容の定着に繋がった教科がある。 ・授業３ステップもICT活用も、ほぼされていない教科がある。	・全授業者が、年度当初に確認した学力向上のための具体的方策を実践していくよう自己目標シートに盛り込み、中途面接で振り返る。 ・学力向上推進部としては、職員研修を通して自身の授業を振り返ってもらう機会を作ったり、授業３ステップの実践を引き続き呼びかける。	A	授業３ステップの実践や、ICT活用の推進も意識して取り組まれているところは評価できる。タブレットを使った授業を参観させていただきうまく活用していると感じた。教科により取り組みに差があるのは生徒のアンケートにも表れていたが、統一して引き続き実践してほしい。	・行事 ・授業公開日		
			全教職員	年間	・授業公開等の機会に指導主事または研究主任による研修を設定し、全教職員でつける。 ・各種研修の成果を自己の実践に繋げたり、校内に伝達したりする。	2				・国・県の学力調査	A	・授業公開等の機会において、指導主事による研修をうけたり、校内で協議したりした。校内で共有した成果や具体的方策を、自身の授業実践に生かした。 ・研修で学んだ内容を校内に伝達し、それぞれが自己の実践に繋げた。	・引き続き、各自で各種研修に積極的に参加し、それを校内に伝達するなど、それぞれの実践に繋がられるようにする。	A	生徒一人一人が考えて発言出来るように工夫されていた。また、先生の創意工夫が感じられる授業も観ることができた。全教職員間、研修の学びや方策を共有し、校内に伝達し、自己の実践に繋がれたことは評価できる。	・行事 ・授業公開日		
	個に応じた特別支援教育の充実	生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援が図られている。	全教職員	年間	・週２回職員朝礼の際に、各学年部より生徒の情報を発信し、全教職員で生徒についての情報を共有する。 ・学期末面談や教育相談を行うことによって生徒の状況を把握し、個に応じた指導・支援につなげる。	3	4	3	4	5	・教科担当者へのアンケート（前年度末）	A	・職員朝礼時には各学年部より生徒の情報を発信し、共有して指導に活かすことができた。 ・期末面談や教育相談を行い、本人や保護者とともに、個に応じた指導・支援につなげることができた。	・全ての教職員が共通認識で生徒に対応するべき部分について周知徹底を図る。 ・生徒自身の成長に向けて、それぞれの方法で必要な関りをとることを心がける。	A	小規模校の良いところは、全教職員が生徒を共通認識しやすく、個に応じた指導・支援を全体で行えるところだと思うので、今後も継続していただきたい。生徒アンケートでは、教育相談で多くの生徒が自分のことを「伝えられた」と答えており、良い関係性が保たれていると思った。	・学校便り	
基礎・基本の定着	朝の始まりの時間を大切にし、基礎・基本の定着と学習習慣の定着が図られている。	全教職員	年間	・朝活動については、タブレットでの学習に取り組み、朝の時間が落ち着いて過ごせるようにする。 ・個々の生徒の実態に即した課題に取り組みさせる。	4	5	2	3	2	・国・県の学力調査意識調査	A	・朝活動の１５分間でタブレット学習に取り組むことで、朝の時間を落ち着いて過ごしている。 ・タブレットLive!の実施率は高まっており、タブレット学習の習慣化に繋がった。	・学力向上推進部としては、継続して朝活動の時間はタブレット学習に取り組むよう計画する。また、週担任は職員朝礼後早めに学校に入り、タブレット学習への取り組みを見守る。	A	タブレット学習の定着が見られ、落ち着いて過ごしているのはとても良いことだと思う。具体的方策にもあるが、「個々の生徒の実態に即した課題に取り組ませる」場としても有効だと思う。	・学校便り		
（２）人間力の育成	より良い人間関係作り	主体的で協働的な生徒会活動ができている。	全教職員	年間	・縦割り班や生徒会活動を通して、他者との関わりの中で主体的な活動の場を設定する。	5	生 徒 指 導 推 進	7	4	6	・ポートフォリオ（生徒） ・アンケートQ-U	B	・体育祭では実行委員生徒を中心にスムーズな運営を行うことができた。その他の活動においても、他学年の生徒との関わりの中でそれぞれの役割を果たすことができた。生徒数の減少に伴い、年度当初の計画から変更することも多く、教員主導で進める場面もあったので主体的な活動という点では十分ではなかった。	・新生徒会組織でも、引き続き他者との関わりを深める活動を設定していきたい。	B	体育祭、音楽発表会、人権研修会等で生徒それぞれが持ち分を發揮し積極的に活動していると感じた。また、縦割り班活動が多い中、他者の意見を尊重したり、関わりを深めることは出来ていると思うが、主体的な活動という面では十分ではないので、先生方に指導していただきたい。	・行事 ・授業公開日 ・学校便り	
			全教職員	年間	・体育祭や音楽会、修学旅行などの学校行事でねらいを明確にし、達成感をあじわわせる。	6	教 務	6		7								8
	人権教育の充実	生徒の人権意識の高揚を図っている。	全教職員	年間	・人権集会に向けた取組を計画的に行う。 ・人権週間において、生徒一人一人の人権意識が高まるように講演会を設定する。	7	人 権 ・ 同 和 教 育 推 進				10	・講演会後の振り返り	A	・人権集会において、「誰もが居心地の良い学校」にするにはどうすればいいのかをテーマに講演会の講師の方と一緒に考え、決意を发表することができた。 ・人権週間には、学級委員のリードで人権についての情報を共有することができた。	・年間を通したテーマを設定し、計画的に人権教育を進める。	A	人間力の育成において人権教育はとても大切で、計画的に継続して取り組むべきものと思う。人権擁護委員の皆さんと積極的に意見交換を行うことができていた。身近な問題はもちろんだが、思い込みや「知らない」ことで社会に出て後悔しないよう生徒を導いていただきたい。	・行事 ・授業公開日
（３）社会力の育成	ふるさと・キャリア教育の充実	生徒が自己理解を深め、自身のキャリアプランニング能力を養う取り組みを行っている。	全教職員	年間	・職場訪問や職場体験、調べ学習など自らのキャリアを考える活動を通して職業観・勤労観を育てる。	8	進 路 指 導	8	6	11	・成果物 ・活動後の振り返り ・県学力調査意識調査	A	・職場体験において事業所での体験が、自分の将来や働く意義を考える良い機会となった。 ・職場体験やキャリア講演会が自己理解を深めるきっかけとなり、将来に向けての視野が広がった。	・関係機関との連携を深め、具体的な学習の方向性を生徒に提示できるようにする。	A	身近な地域の方のキャリア講演会や職場体験は、生徒にとって初めての「働く」こと、「将来」のことを考える良い機会であり、地域の人達にとっても子供や学校を理解する良い機会だと思う。引き続きお願いしたい。	・行事 ・授業公開日	
			全教職員	年間	・地域の「ひと・もの・こと」を活用できるように、計画的に学習活動を行う。	9	総 合 的 な 教 科 学 習 の 時 間	9	5	2								11
（４）信頼される学校づくり	安全教育の充実	防災意識の向上のための取組を行っている。	全教職員	年間	・学期に一回の避難訓練を実施し、防災意識の向上を図る。	10		10		14	・訓練後の振り返り ・消防署からの指導	A	・１学期は３年間、市総務課の出前講座を活用して、防災学習を通して地域の避難所として、生徒が実際にどのような行動ができるか考えることができた。 ・２学期の火災訓練では、冷静に避難行動ができた。	・引き続き生徒の防災意識の向上を図るために計画的に実施する。	A	昨年の能登半島地震においても、中学生が割り当てられた仕事を責任をもって行う姿が報道された。中学生にはそれだけの力があることを認め、委ねることも大切だと思う。積極性・自主性をさらに高める学習を期待する。また、災害はいつ起こるかわからない、予想できない事が多く起こっているからこそ、繰り返し防災意識の向上を図るための計画的に実施していただきたい。	・学校便り	
			全教職員	年間	・１年生対象に交通安全教室を行う。 ・交通安全の意識を高めるために、朝礼・終礼（部活終礼）時に交通安全のルールの徹底と安全タスキの着用を呼びかける。	11	生 徒 指 導 推 進	11		8								・活動後の振り返り
		全教職員	年間	・生徒の実態把握のためのアンケートを実施し、指導に生かす。 ・情報モラル講演会等を活用して、生徒の実態に即した指導を行う。	12	生 徒 保 護 指 導 推 進	12	9	15	・講演会後の生徒の振り返り ・国・県の学力調査	B	・講演会後のアンケート結果から、メディアの使い方が悪い生徒も出てきた。また、公費での支出を基本に保護者負担軽減の方向で計画を立てることができた。	・１学期の講演会の前後で指導をしたため、講演会の後、生徒の意識はとて高まった。今後は２学期以降継続して、情報モラルについて考える機会を学校全体で設定したい。	A	情報モラル教育は毎年継続的にされて、生徒の理解も意識も高まっていると思う。最も重要な教育のひとつなので、今後も継続して、生徒が犯罪に巻き込まれることがないように、学校だけでなく地域も取り組むべき課題だと思う。	・行事 ・授業公開日 ・学校便り		
	地域の力を活用した学習活動の支援体制の推進	・地域のひと・もの・ことを活用した学習活動の支援体制を整えている。	全教職員	年間	・事前・事後に地域の人たちと教職員をつなぐ役割を果たし、支援体制を整える。	13				16	A	・各学年のねらいに即した人材選定に助言や交渉を行い、地域の方と交流できた。 ・特別支援学級の畑づくりでは地域の方に土づくりや植え方を教わることができた。	・引き続きふるさと江津について学年ごとに学びが深めるように支援をする。	A	地域の農家の方に協力してもらい、畑作りを行い、収穫する喜びは、大人も子供も同じで、ピーマン、きゅうり、さつまいもと収穫の喜びがひとしおだったことと思う。地域の魅力・江津の魅力が生徒に伝わるよう、引き続き支援をお願いしたい。			
	学校予算の適正活用	適切で有効な予算計画を立て、適切な執行を行っている。	全教職員	年間	・前年度の執行状況と本年度の教育計画から費用と予算の見直しを行い、適切に執行する。	14	事 務			17	A	・２学期末までのところでは、適切に執行できている。 ・公費での支出を基本に保護者負担軽減の方向で計画を立てることができた。	・今年度の執行状況も参考にして来年度の予算計画を早め立て、引き続き保護者負担軽減に努める。	A	引き続きお願いしたい。	・会計監査（PTA会長）		
	安全な学校環境作り	安全な学校環境作りの取組を行っている。	全教職員	年間	・月ごとに安全点検を行い、その結果を活用して改善する。	15	管 理			12	18	A	・毎月安全点検を実施し、修繕が必要な場所をこまめに直し、安全に配慮できた。 ・学校で修繕できない箇所は市教委に適宜連絡して修繕を行うことができた。	・今後も毎月の安全点検を実施して、安全な学校環境を維持する。	A	校舎も古くなっているので、粘り強く修繕のお願いをしてほしい。	・安全点検表	
		学ぶ場にふさわしい学校環境作りの取組を行う。	全教職員	年間	・ICT機器などが利用しやすい環境を整えるICT支援員等と連携して、準備・管理をする。	16	報 告 ・ 管 理 情 報 聴					A	・生徒のタブレット活用が促進するように環境を整えることができた。 ・ICT支援さんと連携できるように教職員をつなぐことができた。	・生徒がタブレットをより活用できるように環境整備に心がける。	A	言うより慣れ、だと思わず、壊れることを恐れずに活用されたいと思う。		
	効果的な情報発信	家庭、地域に向けての定期的な情報発信や地域行事等への協力を行っている。	全教職員	年間	・学校だよりを定期的に発行し、地域コミュニティセンターにも情報を伝達する。 ・ホームページや保護者メールを通して、学校の方針や教育活動、生徒の様子等を適宜配信する。	17	管 理 情 報 ・ 視 聴	13	11	19	A	・学校だよりをカラーで印刷して地域のコミセンにも継続して配付した。 ・ホームページを定期的に更新し、保護者メールでも適宜情報発信できた。	・今後も地域に情報発信を継続して行い、保護者にも学校の様子をわかりやすく伝えることを続ける。	A	積極的に情報発信が行われており、家庭・地域に伝わる努力をされていると思う。デジタルの活用も効果的にできていて良かったと思う。	・行事 ・授業公開日 ・学校便り		